

第5回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会会議録

- 1 会議名 第5回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会
- 2 開催日時 令和2年3月25日（水）午前10時から正午まで
- 3 開催場所 一関市役所特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐藤善仁委員長、高橋邦夫副委員長、齋藤清壽副委員長、黒川俊之委員、高橋美穂子委員、千葉多嘉男委員、鈴木淳委員、岩淵毅志委員（伊藤正幸平泉町総務課長補佐 代理出席）、村上秀昭委員、熊谷嘉啓委員、橋本雅郎委員
 - (2) 事務局 小野寺啓総務管理課長、吉田健総務管理課長補佐兼施設整備係長、中村謙介総務管理課主査

5 議 事

- (1) 報告
3月開催予定住民説明会の延期について
- (2) 協議
 - ① 施設整備基本方針について
 - ② 候補地の絞り込み方法について
 - ③ 建設場所の検討状況について
 - ④ リサイクル施設の整備方針について
 - ⑤ 視察について

6 公開、非公開の別 非公開

7 あいさつ

本日の会議は、報告事項1件と協議事項5件を予定している。

8 報告内容

事務局 3月6日から11日に予定していた住民説明会は、新型コロナウイルス感染症対策のため延期した。延期に伴う対応として、説明を予定していた内容を令和2年4月発行の「くらしの情報」に掲載して組合管内の各戸に配布することとした。

次回の住民説明会は、開催日程などは未定だが、新型コロナウイルス感染症の対応状況を踏まえながら5月以降の開催としたい。

以下、委員からの質問等

委員長 説明会の延期について、構成市町に問い合わせなどは寄せられているか。

委員 平泉町役場には特に寄せられていない。

委員 暮らしの情報の配布時期はいつになるのか。

事務局 一関市は広報4月1日号と合わせて配布できるよう各行政区長に、平泉町は広報4月号と合わせて配布できるよう平泉町役場に本日（3月25日）届けている。

9 協議内容

(1) 施設整備基本方針について

資料1により事務局から説明を行った。

以下、委員からの質問等

委員長 資料の冒頭「一般廃棄物処理施設」とは、新処理施設と新最終処分場の両方を指すとの認識で良いか。そのような認識であれば、一般廃棄物処理施設という表現を変えるべきではないか。新処理施設と新最終処分場両方を意味していることが分かりやすい表現とするよう検討すること。

事務局 表現を検討する。

委員 それぞれの施設の「環境に配慮した施設」の内容の2つ目「廃棄物の適正処理や環境保全の啓発・学習にも活用できる施設」は、「廃棄物の適正処理」や「環境保全の啓発・学習」に活用できるということではなく、「廃棄物の適正処理」と「環境保全」の啓発・学習に活用できるという解釈でよいか。

事務局 そのとおりである。

委員長 施設での適正処理は当然のことであり、啓発・学習するのは廃棄物処理と環境保全だとすると、「適正」という表現は不要ではないのか。

事務局 表現などを検討する。

委員 「経済性に優れた施設」の内容で、「費用対効果の面で経済性に優れた」とあるが、「費用対効果の面」と「経済性」とは同じことではないのか。

事務局 総合的に経済性に優れるという内容であることを表現できるよう整理したい。

(2) 候補地の絞り込み方法について

資料2により事務局から説明を行った。

以下、委員からの質問等

委員 新処理施設の「災害に強い施設」の項目に「施設建設の阻害要因」とあるが、これは災害に強い施設をつくる上での阻害となる要因ということか。

事務局 この項目は、建設の範囲に亜炭鉱跡があるとか、地盤が軟弱であるなどの要因を想定したものだが、「災害に強い施設」以外の項目としてもよいかもしいない。

委員 両施設に「環境に配慮した施設」があるが、周辺住民の生活環境面の項目を入れた方が良いのではないか。

事務局 比較検討する項目は、デジタル若しくは比較が可能なものを考えた。周辺環境への配慮についても考えたが、デジタル又は比較が難しいと思い、事務局案からは除いた。

委員 新処理施設の「廃棄物を資源として活用できる施設」の項目の「資源の活用先」は、電気の供給などであれば供給先の施設が近いということと理解できるが、それ以外の資源を考えると分かりづらい。「資源の活用先」ではなく、「資源の活用先との関係」や、「資源の活用先までの距離」などの表現とした方が良いのではないか。

事務局 項目の名称からこういった内容が読み取れず、分かりづらいのであれば表現の見直しを検討したい。

委員 両施設の「災害に強い施設」の項目に「想定される災害の種類」があるが、候補地ごとに想定される災害を挙げていくことを想定しているのか。

候補地選定委員会では災害についての考慮はされていなかったのか。

事務局 各候補地で想定される災害があれば挙げていくようなことを考えた。

候補地選定委員会では、各種資料から災害が予想されるような場所は候補地から除いているが、候補地を個別に見ていった場合、例えば集水地形であるなど災害が想定される場合に評価をしようと考えた。

委員 それぞれの候補地4か所は、有識者による十分な協議をもって選定された場所であり、どこが選ばれても問題ないものと思っている。

これら候補地から1か所を選ぶにあたり、数多くの比較項目を設定して比較しても、本当に最適な場所が選ばれることになるのか疑問を感じる。本当に検討が必要な項目に絞って比較しないと判断に迷うことになるのではないか。

総合的に判断することが最良と思うが、総合的に判断する方法というのも難しい。

事務局 それぞれの候補地を見ていただくと、どの候補地でも施設整備が可能であり、それぞれ適地であるが、それぞれ特徴があるため同じ見方では優劣が付かない。

このように比較する項目を挙げたのは、特徴ある候補地からなるべく客観的に選定を進めるためであり、住民が理解しやすいと考えた。

委員 比較する項目は厳選すべきと思う。数値化や比較が難しい項目は、採用すべきではなく、事務局案の項目程度で十分であると思う。

委員 「その他」の項目の「協働による地域づくり」はどのように評価するのか。

事務局 事務局案では、評価の対象としたいものを項目として挙げているので、各項目の具体的な評価の方法についてはこれからの検討となる。

委員 候補地それぞれ4か所の選定過程については、住民から理解を得られていると考えている。4か所の候補地から1か所を選ぶ際にも、住民の理解を得られるような選び方で進めたい。項目の選定も大切だが、各項目の評価も十分に検討して進めたい。併せて、その結果の公表の仕方も考えていきたい。

委員長 本日、委員から出された意見や、これらの案を掲載した組合広報紙に対する住民からの意見などを合わせて今後も検討を進めたい。

(3) 建設場所の検討状況について

令和2年4月発行の「くらしの情報」により事務局から説明を行った。

以下、委員からの質問等

委員 候補地の場所はどのように検討したものか。

事務局 候補地周辺の詳細な地図がない場所は、地図の作成を行った上で、その候補地の地形などから最も適した場所を選び、新処理施設では5ヘクタールの面積を土地の掘削と盛土のバランスがとれるように、新最終処分場では17万8,000立方メートルの埋立容量を確保できるように線を引いたものである。整備予定地の決定後の地質調査の結果などにより、線が調整されることを見込んでいるので、あくまでも現在の検討内容を示している。

これからの候補地の絞込作業のため、新処理施設では余熱活用施設と災害時ストックヤードの敷地を除いた3ヘクタールの面積を確保するような線を引く作業も進めたい。

(4) リサイクル施設の整備方針について

資料3により事務局から説明を行った。

委員長 この議題については、本日結論を出さなければならないものではない。今後引き続き検討していく。

(5) 視察について

資料4により事務局から説明を行った。

以下、委員からの質問等

委員長 他市町村への視察について、(4)の内容に「処理方式や余熱活用方法の具体的な内容、課題や利点を視察する。」とあるが、視察は施設だけを見に行くものではない。分別や収集のしくみを含めて見に行くものなので、そのように修正を行うこと。

10 担当課 総務管理課